

令和3年度 国際理解学習プラン一覧表

	1	2
実施団体名	アジア農村協力ネットワーク岡山	岡山ユニセフ協会
学習プラン名	お米を食べるとアジアが見える 稲作文化の共通点と相違点	考えてみよう 世界と自分のこと ～わたし/あなたのたいせつなもの～
主なテーマ	異文化理解	異文化理解・多文化共生・国際協力
時限数	3時限	2時限
対象学年	小学校（5年生以上）・中学校・高校	小学校（5年生以上）・中学校・高校
1回あたりの対象人数	1クラス35名程度	1クラス
学習のねらい及び期待される成果	食事を実際に試食してみて、その国の食習慣を体験し、また農業のシステムからその国の地形や気候など、様々な様子を学ぶ。	①多様性の理解と相互尊重 自分自身も含め世界中の子どもたちはみんなに「大切なもの/こと」があること、そしてそれは人それぞれで多様なものだということを知る。 普段あまり考えることのない「世界の子どもたち」の生活について知り、考える。 ②SDGsについて理解を深める 世界の子どもたちみんなが幸せに生きるために必要なこととしてSDGsについても理解する。
主な実施内容	<p>1時限： 稲作を中心としたアジア等の国々の食と農の文化を解説</p> <p>2時限： 調理実習 1時限目で学んだ米を使った料理を実際に調理してみる。</p> <p>3時限： 試食と感想をまとめる 食習慣と農業の様子から、それぞれの国を学ぶ。</p> <p>調理実習献立例（相談のうえ決定します） シンガポール：チキンライス バングラデシュ：ビーフカレー タイ：カオパット（炒飯） スペイン：パエリア など ※品数は人数によって調整</p>	<p>1時限</p> <p>①「自分にとって『大切なもの/こと』って何だろう？」 ②その中から3つ選びグループで話し合う。（皆それぞれに大切なものがあることを考える。） ③「世界の子どもたちの大切なもの/ことを想像してみよう」</p> <p>2時限</p> <p>①日本ユニセフ協会の世界の子どもたちの様子を紹介する動画を視聴し、その子たちにとっての大切なもの/ことが何だったかグループで話し合う。 ②みんなが幸せになるために必要なことは何か考える。 ③ユニセフの取組みやSDGsについて紹介。</p> <p>※内容については希望により柔軟に対応可</p>
教育機関で準備してほしいもの	調理実習室、プロジェクター、調理実習で使用する食材の一部	スクリーン、プロジェクター、スピーカー、パソコン
講師派遣予定人数	1名	2名
オンラインでの実施	不可	不可

令和3年度 国際理解学習プラン一覧表

	3	4
実施団体	世界女性会議岡山連絡会	ダフェプロジェクト
学習プラン名	暮らしの中から世界の未来を考える —家庭・学校・地域と持続可能な社会—	SDGs の視点から多文化共生を考えよう
主なテーマ	国際理解・多文化共生・国際協力	国際理解・多文化共生
時限数	3または4時限	2時限（1時限は45分間）
対象	小学校・中学校・高校	小学校（4年生以上）・中学校・高校
1回あたりの対象人数	50名程度（講義とグループワーク）	40名程度
学習のねらい及び期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上の国籍、民族、言語や習慣など異なる人々が、お互いの社会的・文化的違いを認め合い、対等な関係を築きながらともに生きていくことが大切である ・持続可能な開発目標 SDGs から様々なことを知り、ローカルな視点とグローバルな視点を持ち、環境・社会・経済のバランスがとれた家庭・学校・地域を考えるきっかけづくりになる ・地球規模の課題に関心を持ち、行動を起こすことに期待する。 	<p>身近にいる外国にルーツのある人たちの国のことを知る。お互いが地域社会の構成員であるという認識を持つ。</p> <p>国際理解・多文化共生への関心を高める。</p>
主な実施内容	<p>1時限【世界の歩みと私たちの歩み】 世界の歴史と私たちのこれまでの歩みを振り返り、これからの歩みを考える。 地球上のすべての人々の幸せは、私たちの未来につながっていることを知る。</p> <p>2・3時限【世界とつながる私たちの暮らし】 私たちの暮らしは、世界とつながっている。国連総会で2030年に向けて合意した「持続可能な開発目標 SDGs の17項目を理解する。 グループワークでSDGsの学び教材を作成する。</p> <p>4時限【家庭・学校・地域からの持続可能な社会づくり】 1時限から3時限までの学びから、持続可能な社会の実現に向けてSDGsの学び教材を発表して、一人ひとりのこれからの取組みを考える。</p>	<p>1時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山の現状を知る 在岡外国人の統計や多言語の行政サービスなど ・留学生の国の紹介 学校生活、家での暮らし、文化、習慣などについて知る <p>2時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加型ワークショップ グループに分かれて留学生とおしゃべりをしてみよう <p>※コロナの状況により変更の可能性あり</p>
教育機関で準備してほしいもの	世界地図、地球儀、模造紙、 カラーマーカー（水性）、付箋紙など	パソコン、プロジェクター、スクリーン
講師派遣予定人数	2名	3名
オンラインでの実施	不可	可（ただし内容は要調整）

令和3年度 国際理解学習プラン一覧表

	5	6
実施団体	特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構	特定非営利活動法人岡山日本語センター
学習プラン名	SDGsを学び、できることを考えよう！ (参加型ワークショップで感じよう！考えよう！ 世界と「わたし」)	お互いの言葉や文化を尊重して、 多文化共生を考えよう
主なテーマ	国際理解・多文化共生・国際協力	異文化理解・多文化共生
時限数	2時限	3時限
対象	小学校(5年生以上)・中学校・高校	小学校・中学校・高校
1回あたりの対象人数	体験的アクティビティ含める場合：20～60名程度 体験的アクティビティ含めない場合：それ以上でも可	上限なし
学習のねらい及び期待される成果	SDGsは私たちの日常生活と密接に関係しており、自分とも、教室の中とも世界はつながっている、ということに気づいてもらうのが狙い。シミュレーション等を通じて、世界の多様性や格差を体験的に学び、遠い世界のことをより身近に感じてもらう。また、世界の現状について理解を深めるだけでなく、国際社会の一員として自分が出来ることは何かを考え、行動に移すことが出来るよう促す。	同じ地球上に住む人間同士には類似点も相違点もあるということ。言葉が通じにくくても、じっくり相手の目を見て、耳を傾ければ理解できるということに気付かせるのをねらう。 お互いの言葉や文化を尊重することによって愛が生まれ、世界の平和と安全を心から願うという実感を持つことが期待される。
主な実施内容	<p>1時限 「世界がもし100人の村だったら」のシミュレーションまたは「世界一大きな授業」を通じ、世界の多様性や格差とその影響を、背景とあわせて体験的に学ぶ。それにより、自分とも、教室の中とも世界はつながっている、という気づきを促す。 ①講師の紹介とゲームの導入<10分> ②100人村シミュレーションゲーム<35分> ゲームでは、各自が「役割カード」に書かれた情報(性別、年齢、地域、栄養状況、言語、挨拶の言葉、文字)に従って動き、人口の偏りや言語、文化、教育レベル、所得などが国や地域によって違うことを疑似体験する。</p> <p>2時限 シミュレーションを振り返り、各自の気づきや感じたことを共有する。また、多様性や格差の具体的な事例として、当機構が活動する国の状況や、問題解決への取り組みを紹介し、理解を深める。 ①シミュレーションの振り返り<10分> ②当機構が活動している国の状況などを紹介する<10分> ③問題点をグループで話し合い、できることを考える<15分> ④SDGsの目標達成に向けた当機構の取り組みを紹介しながら、学習全体のまとめを行う<10～15分></p>	<p>1時限：「世界の文化と繋がろう」 世界中で集めた日用品や玩具、先住民などの工芸品約150点に実際に触れたり使ってみたりすることで、世界の文化の違いや繋がりを感じさせ、みんな地球人であることの意味を考えさせる。</p> <p>2時限：「言葉は文化であり、文化は言葉である」 パワーポイントを使って説明し、この35年間の岡山の国際社会の変化、岡山で日本語を学ぶ外国人の事、多文化共生社会で大切なコミュニケーションとは何かを考えさせる。</p> <p>3時限：「日本以外の文化をもつゲストと話し合う」 クラスまたは学年をグループに分けて、各ゲストの国や地域のことならびに岡山のことを、ゲストの目を見ながら日本語でじっくり話し合う。言葉が通じにくい時にはどうしたら良いかも考えさせる。</p>
教育機関で用意してほしいもの	プロジェクター、スクリーン(パワーポイント使用)	地球儀、プロジェクター
講師派遣予定人数	のべ2名(1・2時限各1名)、 またはのべ4名(1・2時限各2名)	1～5名
オンラインでの実施	可(ただし内容は要調整)	不可